

国語（第1回）

		得点率 (%)
1 説明文	問一	64.6
	問二	90.8
	問三	50.0
	問四	82.1
	問五	38.1
	問六	88.0
	問七	96.5
	問八	47.8
2 物語文	問一	42.9
	問二	20.8
	問三	29.0
	問四	95.7
	問五	89.0
	問六	81.2
	問七	24.6
	問八	44.9

合格者最高点 84

合格者最低点 48

1 出典：小川仁志『「道徳」を疑え！』

問一 1頁上段1行目傍線(1)『「ハッピーマナー」というタイトルの面白い話」が小学生に教えるものを、「ということ。」に続くように本文中から20字以内で抜き出す問題です。抜き出しなので、「仲よく」を「仲良く」と漢字で書くと得点にはなりません、そういった答案が目立ちました。

問二 1頁上段3行目の2に入る漢字1字を考える問題です。90%を超える正答率でした。

問三 1頁上段30行目傍線(3)「それが私の疑問です」に示される、道徳の教科書や授業に対する批判点を答える問題です。この文章の最後の段落、2頁上段91行目からの段落に、筆者の主張がまとめられていますので、このあたりを利用します。解答の要素としては、93行目からの「正しいと思いきませる」「決まりだといったから守るようする」を利用し、最後を「正しく生きること結びついていないから。」というように記述します。文章の最後の段落にまとめられている筆者の主張が参照されず、十分に書き切れていない解答が多かったため、正答率は50%にとどまりました。なお、問三のように、行数指定のある問題は、行数以内で欄外にはみださないように書く必要がありますが、字数は点数には影響しません。

問四 1頁下段52行目傍線4「なぜそれを破る人がいるのでしょうか？」という箇所の理由を問う問題です。2頁上段69行目に「時にはルールを破ったほうが自分のやりたいことをよりスムーズに実現できる場合がある」を利用し、文末が理由を表す「から」になるようにします。ほとんどの答案が、2頁上段69行目に「時にはルールを破ったほうが自分のやりたいことをよりスムーズに実現できる場合がある」を利用できており、正答率が8割を超えました。

問五 人が必ず「決まり」を守るためにはどうする必要があるのかを説明する問題です。筆者の主張は、破ってもよい「決まり」ではないかを検討したうえで、破ってはいけない「決まり」こそ守ることがで

きるということです。したがって、解答には、2頁上段 88 行目「そうした行為（すなわち決まりを破る行為）は正しいといえる可能性」や 96 行目「根源から考え直す」といった語句を使ってまとめます。「決まりを根源的に考え直す」という記述にとどまり、その後、どうするのかまで踏み込んで書けていない答案が多く見られました。

問六 接続詞を選ぶ問題です。たいへんよくできていました。

問七 漢字の書き取りは、とてもよくできていました。「複数」を「復数」とする答案が少々見られました。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。まず、1頁下段 55 行目に、決まりとは「みんなが仲良く暮らすための決め事」とあり、また、2頁上段 66 行目に、「自分がやりたいことをスムーズに行うためです」とありますので、正解はイです。選択肢アは、「決まりとは」「これを決めておかないと自分がやりたいことを実現することはできません」とありますが、本文によれば、「決まり」はスムーズにするためのものであり、やりたいことの実現の絶対条件とまでは言っていませんので誤りです。選択肢ウでは、「決まりとは正しいことを守らせるためのルールであり」というのが筆者の考えに反しています。選択肢エでは、後半の「このルールを守ることで人は本当の意味において正しく生きることができる」とありますが、2頁上段 95 行目「私たちが教育の場で道徳を教えるのは、本当の意味で正しくいきるためであるはずです」とあり、正しく生きるために必要なのはルールを守るのではなく、道徳そのものということが述べられています。エとした答案が多く見られました。

2 出典：高田郁『ふるさと銀河線』

北海道を舞台とし、高校進学を前にしてふるさとに留まるのか出るのかで揺れる、少女星子（せいこ）を主人公とした話です。

問一 4頁上段 2 行目傍線 1「この町でそれを生かした仕事に就きたい」とありますが、星子がこの町から離れまいとする理由を説明する問題です。4頁下段 34 行目「妹が兄である自分のことや、この町のことを想う気持ちはわかる」とありますので、解答の要素として、「兄のこと」と「この町への想い」が必要です。ほとんどの答案に、町の要素はありましたが、兄の要素まで書けているものは少なく、正答率は4割程度となりました。

問二 4頁上段 3 行目傍線 2「兄は不服なのだろうか」とありますが、兄は星子にどのようにしてほしいと思っているのかを説明する問題です。4頁下段 36 行目「妹には自分の人生を懸けて夢に向かって行く勇気を持ってほしい」とあります。ここでいう夢とは、具体的には演劇の道に進むことです。設問に「具体的に」とありますので、「演劇を続けてほしい」といったことが必要ですが、抽象的に「夢」とだけしか説明されずに加点されなかった答案が多く、正答率は2割程度となりました。

問三 5頁上段 65 行目傍線 3「真っ暗な舞台に立つ星子を、ピンスポットが眩しく照らしていた」の意味を問う問題です。星子の将来の夢である演劇の舞台に立って演じている自分を心に思い浮かべたということですが、「演劇への思いが再燃した」といった点への言及にとどまっている答案が多く、3割程度の正答率となりました。

問四 6 頁上段 143 行目 4に入れるのにふさわしい表現を選ぶ問題です。星子は直前の天文技師青柳のことばに感銘を受けていますので、正解はアの沁(しみ)みたです。たいへんよくできていました。

問五 語句問題で、血を使った慣用句に関する問題です。たいへんよくできていました。

問六 6 頁下段傍線5「もう一度、繰り返した」の理由を問う問題です。この文章の前半で、星子がこの町に留まり、演劇ではなく福祉の仕事をするとうちは決めたことが書かれており、後半で、青柳の話聞いて、夢に向かって進むことの大切さを教えられ、将来について考え直そうという気持ちになっている様子がうかがえますので、正解はウです。正答率は8割でした。

問七 本文を場所の変化という点で四つの場面に分けた場合、第四場面はどこかという問題です。第一場面は、ガンビー周辺や帰路の場面、第二場面は学校の場面、第三場面は、星子が学校を出てから青柳に会うまでの場面、第四場面が天文台での場面となりますので、正解は、5 頁上段 92 行目冒頭の「銀河の森天」ですが、「何処をどう」「ドームの扉」といった答案が多く見られました。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。星子の進路に関する助言のなかで、星子が素直に話を聞いていたのは青柳だけですので、正解はエです。アでは、「それぞれ言うことが異なり」とありますが、兄と先生は同じ助言をしていますので誤りです。イでは、兄、先生たち、青柳の助言に対して「最初は反発していた」とありますが、青柳には反発をしていません。ウでは、「福祉を学びたいという星子の思いを」「青柳だけはその思いを受け入れ」とありますが、青柳の助言は福祉を学ぶ方向ではないので誤りです。アの「それぞれ言うことが異なり」、イの「最初は反発していた」といった、選択肢の誤った個所に気づけなかったのか、誤答が意外に多く、正答率は5割に至りませんでした。